山村は先端技術の実験場
―未来に向けた協働に期待する―

全国山村振興連盟常務理事・事務局長　實重　重実

寒山子のタクト

あちこちの山村に出かけて、市町村の取組をつぶさに見せていただいている。また、山村の市町村長さんたちと親しくお話しし、現地の状況を聞かせていただいている。

それで分かってきたのだが、山村は現在、未来社会に向けての実験場となっている。ありがたいことに、日本国民には「山村はいらない」などと言う人はいない。山村はわずか3％の人で、国土の半分の面積を管理し守っている。上流にある土地や森林が、水源を涵養し、洪水や土砂崩壊を防止してくれている。そこに人が住んで、林業や農業が営まれ、自然の生態系が穏やかに健全に循環していることが、国土にとって必要だ。そのことを皆分かってくれている。

特に近年の豪雨・台風などの異常気象や地震による自然災害の頻発には、国民全体が不安を強めている。今や日本のどこにいても、従来には考えられなかったような自然災害に遭遇するおそれがある。そしてそれは、地球温暖化やプレートの移動などによって、今後も更に激化する可能性がある。

さえある。

そうしたときに上流の山村がきちんと管理されていなければ、災害の防止どころか倒木・流木や土砂崩れによって、却って災害の元となるおそれ

国土保全・災害防止や二酸化炭素吸収など、森林の持つ公益的な役割が評価されて、来年度から森林環境税（当面は森林環境譲与税）が導入されることとなった。

このように山村の存在は必要だと、誰からも認められているにもかかわらず、高齢化・人口減少が進み、存続の危機にある集落も多い。そこで国や地方自治体は、様々な手段によって山村での暮らしや産業振興を支援する。中には10割補助（定額支援）となっている「山村活性化支援交付金」のようなありがたい補助事業もある。

様々な行政分野からの多彩な支援により、山村では先端的な実験が可能となる。広大な土地や森林、光や水などの豊富な資源があるのだから、これを用いて太陽光発電、木質チップによるバイオマス発電など再生可能エネルギーの産業振興を図っている市町村は多い。先般訪問した群馬県上野村では、森林の伐採に村が助成し、バイオマス発電によって生じた電力はあえてFITによる売電に回さず、キノコ栽培に振り向けていた。

北海道苫前町では、日本海の強い風を利用して、日本有数の大規模な風力発電が行われているという。

再生可能エネルギーばかりではない。農泊、古民家レストラン、インターネットによる産地直送などあらゆる多彩な努力が払われている。先般、新潟県村上市の高根地区を訪問した。高齢化が進んでいるのは他の山村と同様だが、古い別荘を利用した宿泊施設や農家民宿を営んで外来客を誘致しているのは40代以下の若い世代だった。

フェイスブックなどITによって発信することが有効だとのことだった。

ITによって人の輪が広がり、都市の若者にとって山村がかつてよりも身近なものになっているという。

また、未来型の取組で目を引くのは、車の自動運転の走行実験だ。山村では、日本社会全体に先行する形で高齢化・人口減少が進んでいる。そう

した中で、自動運転が実用化されていけば、無人タクシー、無人バス、無人トラックなどによって、人の移動と物の流通が可能となり、地域社会を大きく変貌させるだろう。

近い将来、お年寄りがデイサービスや病院に行くときも、子供が学校に行くときも、無人走行車に乗っていくことになるだろう。また、家に宅配サービスを依頼すれば食事や生活用品を無人自動車やドローンが運んで来てくれるだろう。これは、夢物語ではない。

国は、2020年代の半ばまでにその第1段階を実用化することを目標に掲げている。そして山村など全国の市町村で、現に様々なタイプの走行実験を行っており、農山村の自治体や住民が実験に参加し、大いに協力して、自動運転が実用化の上で、大きな貢献ができることに誇りを持つことができたなどのコメントが寄せられた。最後に協力の現場において現地の人との繋がりや信頼の醸成について各登壇者からその重要性が述べられた。

セミナー後は会場内の一角において現役の関係コンサルタント等がパネル展示・説明ブースを設け、セミナーに参加した学生に向け業界説明や個別相談を行い、4時間におよぶ平成30年度ADCAセミナーは盛況のうちに終えた。

久野ADCA副会長の開会挨拶

櫻井高知大学長の共催者挨拶

「ディスカバー農山漁村の宝」
32地区を選定
―第5回―

内閣官房及び農林水産省は10月17日、強い農林水産業、「美しく活力ある農山漁村」の実現に向け、農山漁村の有する多面的機能の発揮を通じた地域活性化に取り組む優良事例を表彰する「ディスカバー農山漁村（むら）の宝」（第5回）に32地区を選定した。グランプリと特別賞の5賞（フレンドシップ賞＝農泊、ジビエグルメ賞、チャレンジ賞＝農林水産物等の輸出、アクティブ賞＝女性や高齢者、障がい者の活躍、プロデュース賞＝6次産業化の推進）は、11月下旬に開催される第3回有識者懇談会で決定する。

選定地区は次の通り。

▽㈱いただきますカンパニー（北海道帯広市）▽黒千石事業協同組合（北海道北竜町）▽農業生産法人㈱神門（北海道雄武町）▽遠野・三陸ブランド海外輸出協議会（岩手県遠野市）▽農事組合法人仙台イーストカントリー（宮城県仙台市）▽大崎の米「ささ結」ブランドコンソーシアム（宮城県大崎市）▽大館まること体験推進協議会（秋田県大館市）▽農事組合法人結乃村農楽団（福島県猪苗代町）▽㈲ココ・ファーム・ワイナリー（栃木県足利市）▽㈱もてぎプラザ（栃木県茂木町）▽㈱秩父地域おもてなし観光公社（埼玉県秩父市）▽㈱桑郷（山梨県市川三郷町）▽南砺市商工会利賀村支部（富山県南砺市）▽合同会社のとし団（石川県羽咋市）▽小浜市阿納体験民宿組合（福井県小浜市）▽つくでスマイル推進協議会（愛知県新城市）▽㈱榎寛コーポレーション（三重県尾鷲市）▽与謝地域山村活性化協議会（京都府与謝野町）▽㈲こやま園（兵庫県丹波市）▽㈱吉野かわかみ社中（奈良県川上村）▽おおだ一日漁推進協同組合（島根県大田市）▽地美恵の郷みまさか（美作市獣肉処理施設）（岡山県美作市）▽合瀬戸内ジャムズガーデン（山口県周防大島町）▽茂谷元気なまちづくり（徳島県阿南市）▽合遊子川ザ・リゾート（愛媛県西予市）▽ゆず輸出促進協議会（高知県北川村）▽福岡県農業高等学校食品研究班（福岡県梅研究班（福岡県大野市）▽㈱成美（大分県国東市）▽ウーマンしまアオイファーム㈱（大分県国東市）▽㈱美ら島（沖縄県南城市）

【プロフィール】
實重重実（さねしげ・しげざね）
1956年10月26日島根県生まれ。79年東大法卒、同年4月農林水産省入省。2008年九州農政局長、09年大臣官房総括審議官（国際担当）、11年農村振興局長等を経て14年農林水産省退職。同年農林中央金庫監事。18年あいおいニッセイ同和損害保険㈱顧問（現職）、全国山村振興連盟常務理事・事務局長（現職）。著書に「森羅万象の旅」（地湧社1996年）、「生命と地球の物語」（雑誌「明日の食品産業」に8回連載。1994～1995年）、「もう一つの食料超大国フランス」（家の光協会1994年）、「EC食品産業の野望」（日本貿易振興会1993年）等。

SEKISUI
タイマー機能と水位センサーで
水位管理の省力化を実現！
（ICTの活用も可能です）
水田水管理省力化システム
多機能型自動給水栓
水まわりくん
省力化で
●水田経営の大規模化
●果樹、園芸の作業時間確保
かけ流し防止で
●ポンプ運転の電気代の節約
●肥料や泥の流出防止で水質保全

新

私の勤務する小山用水土地改良
木県小山市を流れる思川の東部に
下野市より野木町に至る細長くく
びる水田地帯です。賦課面積は1
クタール（昭和41年）から964
ル（現在）へ減少しました。これ
区内において工業団地の造成が先
和50年代に開通した東北新幹線
首都圏のベッドタウン化に拍車
たものと考えられます。そん
な都市化の過程で、様々な問
題に苦慮しておりますが、今